

# せいれいからもらった勇氣



パーカー・S, 9才  
(アメリカ合衆国,  
ユタ州)

夜、ぼくはお母さんにベッドに入れられて、横になっていました。そして、自分がかくしていることについて考えていました。ぼくの心は罪悪感でいっぱいでした。そのとき、ぼくはいのことを思い出しました。いのると、せいれいが、自分の心にあることをお母さんに話ささいと言われました。

どういうわけか、ぼくはそれについてお母さんに話すのをためらっていました。サタンがぼくをこわがらせようとしていることが分かりました。そして、せいれいのおかげで、お母さんに話すのが正しい行いであることも分かりました。

ついに、ぼくは勇氣を出してお母さんのところに行き、話をしたいと言いました。そして、自分のしたことや自分の気持ちについて、全部話しました。意外なことに、お母さんは少しもおこりませんでした。お母さんは勇氣



を出して話してくれたことが、とてもうれしいと言いました。ぼくたちはだき合いました。それから、ぼくはお母さんに、ゆるしてくれるようたのみました。ぼくはほっとして、うれしくなりました。

ぼくはもう一度天のお父様にいのって、天のお父様にもゆるしを求めました。みたまにしたがって正しいことをするのは、とても自分の良いことでした。間違ったことをしたとき、くい改められるようにして下さったイエス様に感謝します。ぼくが良い気分になれるよう助けて下さったせいれいにも感謝します。それから、ぼくに耳をかたむけ、ぼくのことをわかってくれる、やさしいお母さんにも感謝します。●